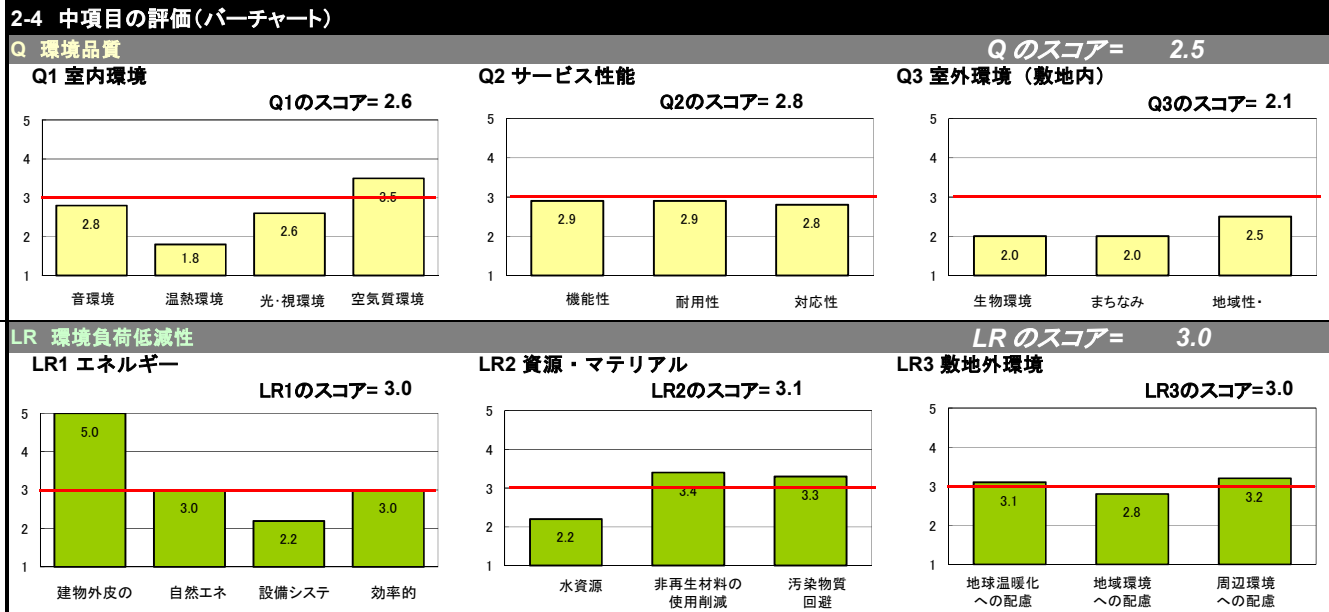
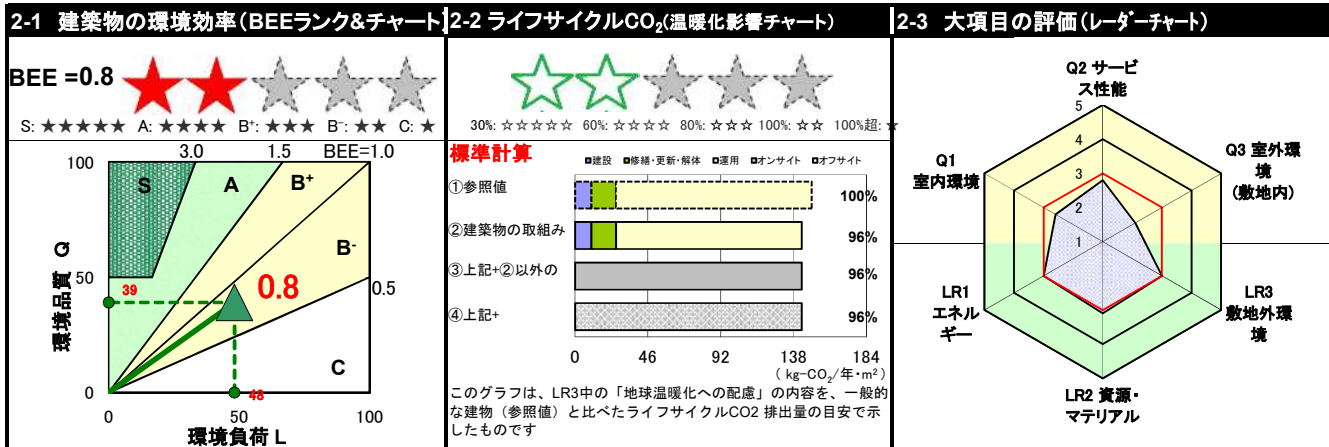


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23030

建築物名称	(仮称)介護老人保健施設白梅日向山ケアホーム新築工事
建築主	社会福祉法人 白梅福祉会 理事長 寺田 純久
建築物の所在地	川崎市多摩区柝形四丁目1671番1ほか4筆
設計者氏名、建築士事務所名	石塚 幹夫 株式会社奥野設計 横浜事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,101.11㎡
用途	介護老人保健施設
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了予定年月	令和6年9月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)介護老人保健施設 白梅日向山ケアホーム 新築工事	階数	地上3F
建設地	神奈川県川崎市多摩区枳形四丁目1671番1ほか4筆	構造	S造
用途地域	第一種低層住居専用・準住居地域、準防火地域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年09月 予定	評価の実施日	2023年02月20日
敷地面積	3,850 m ²	作成者	石塚 幹夫
建築面積	1,720 m ²	確認日	2023年11月07日
延床面積	5,101 m ²	確認者	寺田 純久

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし。	1.9/4.3	2.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.8
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	特になし。	0.8/1.6	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし。	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.70。	3.0/5.0	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	LGS使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	3.0/4.7	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし。	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	特になし。	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	床ビニル床タイル、断熱材。 LGS使用している。	2.5/4.0	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	特になし。	0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし。	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.70。	3.0/5.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	特になし。	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	特になし。	0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.70。	3.0/5.0	3.0

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
2.5										
1 音環境										
2.6										
2.8										
1.1 室内騒音レベル										
3.0 0.40 3.0 0.40										
1.2 遮音										
3.8 0.40 3.6 0.40										
1 開口部遮音性能										
開口部遮音性能:T-2以上。										
5.0 0.40 5.0 0.30										
2 界壁遮音性能										
3.0 0.60 3.0 0.30										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
-										
3.0 0.20										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
-										
3.0 0.20										
1.3 吸音										
1.0 0.20 1.0 0.20										
2 温熱環境										
1.8 0.35 1.7 1.00 1.8										
2.1 室温制御										
2.7 0.50 2.5 0.50										
1 室温										
3.0 0.38 3.0 0.57										
2 外皮性能										
W										
2.0 0.25 2.0 0.43										
3 ゾーン別制御性										
3.0 0.38 -										
2.2 湿度制御										
1.0 0.20 1.0 0.20										
2.3 空調方式										
1.0 0.30 1.0 0.30										
3 光・視環境										
2.4 0.25 3.1 1.00 2.6										
3.1 昼光利用										
3.0 0.30 3.6 0.30										
1 昼光率										
住居部分:1.0% ≤ [昼光率] < 1.25%										
3.0 0.60 4.0 0.60										
2 方位別開口										
-										
3.0 0.40 3.0 0.40										
3 昼光利用設備										
1.0 0.30 3.0 0.30										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
W										
1.0 1.00 3.0 1.00										
3.3 照度										
3.0 0.15 3.0 0.15										
3.4 照明制御										
3.0 0.25 3.0 0.25										
4 空気質環境										
3.6 0.25 3.3 1.00 3.5										
4.1 発生源対策										
4.0 0.50 4.0 0.63										
1 化学汚染物質										
JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。										
4.0 1.00 4.0 1.00										
4.2 換気										
2.0 0.30 2.3 0.38										
1 換気量										
3.0 0.50 3.0 0.33										
2 自然換気性能										
-										
3.0 0.33										
3 取り入れ外気への配慮										
1.0 0.50 1.0 0.33										
4.3 運用管理										
5.0 0.20 -										
1 CO ₂ の監視										
-										
2 喫煙の制御										
ビル全体の禁煙が確認されている。										
5.0 1.00 -										
Q2 サービス性能										
- 0.30 - - 2.8										
1 機能性										
2.4 0.40 3.8 1.00 2.9										
1.1 機能性・使いやすさ										
3.0 0.40 5.0 0.60										
1 広さ・収納性										
個室10㎡/床で、かつ多床室8㎡/床以上。										
-										
5.0 1.00										
2 高度情報通信設備対応										
-										
3.0 1.00										
3 バリアフリー計画										
1.0 0.30 2.0 0.40										
1.2 心理性・快適性										
-										
3.0 0.50										
1 広さ感・景観										
-										
2 リフレッシュスペース										
-										
1.0 1.00 1.0 0.50										
3 内装計画										
3.0 0.30 -										
1.3 維持管理										
3.0 0.50 -										
1 維持管理に配慮した設計										
-										
3.0 0.50 -										
2 維持管理用機能の確保										
3.0 0.50 -										
2 耐用性・信頼性										
2.9 0.30 - - 2.9										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
3.0 0.50 - -										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
3.0 0.80 - -										
2 免震・制震・制振性能										
3.0 0.20 - -										
2.2 部品・部材の耐用年数										
3.0 0.30 - -										
1 躯体材料の耐用年数										
R										
3.0 0.20 - -										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
R										
2.0 0.20 - -										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
R										
3.0 0.10 - -										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
R										
3.0 0.10 - -										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
R										
4.0 0.20 - -										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
R										
3.0 0.20 - -										
2.4 信頼性										
2.6 0.20 - -										
1 空調・換気設備										
-										
3.0 0.20 - -										
2 給排水・衛生設備										
-										
2.0 0.20 - -										
3 電気設備										
-										
3.0 0.20 - -										
4 機械・配管支持方法										
-										
3.0 0.20 - -										
5 通信・情報設備										
-										
2.0 0.20 - -										

3 対応性・更新性								2.9	0.30	2.6	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり								2.2	0.30	2.2	0.50	
	1	階高のゆとり						1.0	0.60	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ						4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり								3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性								3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性						5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性						5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出				G	W		H	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上							2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			G	W		H	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー								-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制					W		H	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					W		H	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化					W		H	2.2	0.50	-	-	2.2
4 効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価							3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		W			H	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		W			H	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価							-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		W			H	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		W			H	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護					W		R	2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水							1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								3.4	0.60	-	-	3.4
	2.1 材料使用量の削減				W		R	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R	4.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避							3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤		W				-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		W				4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		W				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境								-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮					W			3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮								2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止							3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			G	W		H	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制							2.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減				R		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制				R		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制				R		3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制				R		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-	
	1	騒音						3.0	1.00	-	-	
	2	振動						-	-	-	-	
	3	悪臭						-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制							3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制						-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制							4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	○	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	1.0	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	1.0	3.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC- 窓の日射熱取得率(η) -
 U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -
 住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -

3.1.1 昼光率

昼光率 1.1%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口率 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ /人 病床 8.9㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 16.1%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 24% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 55% 水平投影面積率 17% 地表面対策面積率 14% 舗装面積率 44%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPIm 0.70 熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPIm 非住宅 0.95 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品Eビニル床タイ、エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 3

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 75% 棟間隔指標Rw 2.26
 地表面対策面積率 18.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%
 見付面積Sb 832㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 92.2 m 基準高さHb 11.89 m
 緑地 420㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡